

11月22日(金) 視察研修 「茨城県女性団体連盟のつどい」

今回のテーマは「新しい時代に、受け継ぐ・変える・伝える」。基調講演は衆議院議員 永岡桂子さん。平成17年の政界出馬から、子育てを体験した議員が少ない中、自身の子育て経験から政界をみて、活動に励まれ、「意思決定の場所に女性の意見を」と力説されました。

パネルディスカッションのテーマは「女性が活躍できる共生社会を目指して・家庭を変える職場を変える」。パネリストは、米専業農家へ嫁ぎ6人の子供を育てながら共に働き、農業から見える視点を内外地域に発信している女性と、茨城県ホテル旅館生活衛生同業者組合女将の会会長。どちらも自分が感じたことを外に発信していけば、環境が変わり、理解者が集い、職場が変わっていくことを体感されました。しかしながら、後継者という難題はなかなか解決されない問題のようでした。このまま力強く職場・地域へと情報を発信していってほしいと感じました。

神保 裕子

10月30日(水) 茨城県女性団体連盟 「若者と大人世代の交流啓発フォーラム」

今回のテーマは「世界とつなごう 地域の絆-SDGs-だれも置き去りにしない社会づくりを考える」。パネルディスカッションでは、4人のパネリストから事例発表があり、どの事例も聴衆を引き込む実体験を踏まえた素晴らしい発表でした。

その中で、「自分探しの海外への旅」を発表した若い女性の過去を振り返る内容には、私の若い頃と重なる部分があり、興味深いものでした。学生時代に生きづらさを感じた彼女は、「ストリートチルドレン」などの海外の社会問題を学び、世界の現実に向き合うことで、自分の生き方が見えてきたのだと思います。若いうちに世界の現状を自分の目で見て考えることは、視野が広まりグローバルな視点から物事を考えられる素地が養えると感じました。そして、体験を活かして、心に傷を抱えた人を支援する仕事に励んでいる彼女を応援したいと思いました。

社会的弱者に目を向けた社会は、住みよい理想的な社会づくりに繋がっているのです。

霜田 礼子



ばんどう市女性団体協議会 会報

Vol.14

《目的》 私たちは、市内の女性団体が相互に連携・協力することにより、構成団体の一層の活動強化並びに男女共同参画を推進することを目的とする。～規約第2条より～

今年度の新企画

9月27日(金) 「市長を囲んでパママ懇談会」-ねえ市長さん聴いて聴いて-



初めての試みである、現在子育て中のお父さんお母さんたちと市長さんとのコミュニケーションの場があるということで、参加させていただきました。一番下の子がまだ5歳なので、託児付きの企画はとてもありがたいです。

懇談会には0歳児から中学生のお子さんの方が参加していました。悩みや子育てに対する思いは皆それぞれで、話し合いが時間内では足りないくらい充実した懇談ができて、とても勉強になりました。



市長さんにも沢山の親御さんの声を聴いてもらう良い機会となり、少しずつでもいいので「坂東市で子育てをしたい、子育てをしていて良かった」と思えるような環境づくりをしてほしいと思います。

子育て中のお父さんお母さんも是非、みんなで一緒に子どもに優しい環境をつくっていきましょう。

丸山 和代

令和2年2月9日(日)～3月7日(土) 第5回坂東ひな飾り展

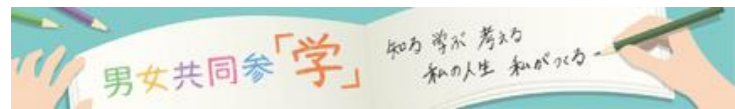
5回目となるひな飾り展は、今年も秀緑、坂東郷土館ミュージアム等に展示しました。5年間に作った作品をまとめて飾ったり、1本飾りにしたり、とても賑やかな空間になりました。しじみのストラップづくりも大好評でした。

山中 佳子



6月25日(火) 東京国際フォーラム 男女共同参画社会づくりに向けての全国会議

今年度のテーマは男女共同参画「学」
知る 学ぶ 考える 私の人生私がつくる



編集後記

第14号の表紙を飾ったのは、新企画「市長を囲んでパママ懇談会」の様子です。今年度は若い世代に向けた企画に挑戦した年でした。今後女性の視点から、若い世代が地域で活躍できる社会を目指した活動に取り組んでいきたいと思っています。

最後に、今回も事務局をはじめ、たくさんの方々にご協力を頂きました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

会員募集中!

各団体の問合せ等詳しくは、坂東市役所市民協働課 (Tel.0297-21-2183)へ。個人でも入会可。

構成団体(連絡先)

坂東市女性フォーラム	Tel. 090-3048-2586	ガールスカウト茨城県第8団	Tel. 0297-30-5171
坂東市更生保護女性会	Tel. 0297-35-1470	坂東市交通安全母の会	Tel. 0297-21-2180
坂東こども劇場	Tel. 0297-36-3504	坂東市地域女性団体連絡会	Tel. 0297-21-2204

☆ 令和元年度「ばんどう市女性団体協議会」主な事業 ☆

5月 総会	11月 視察研修
6月 男女共同参画社会づくりに向けた全国会議参加	県女性団体連盟「連盟のつどい」
9月 市長を囲んでパママ懇談会 ばんどうホコテン参加	1月 給食試食体験
10月 県女性団体連盟「若者と大人世代の交流啓発フォーラム」、いきいき茨城ゆめ国体ふるまい料理提供	2月 男女共同参画事業映画上映会 坂東ひな飾り展
	3月 会報第14号発行



会長あいさつ 「202030」にいまるにいまるさんまる

市民の皆様はじめ関係各位の皆様には、日頃より当会の活動にご支援ご協力を頂き、感謝申し上げます。

政府は17年前、2020年までに社会のあらゆる分野で指導的立場の女性を3割にする目標を掲げ、今年がゴールの年です。男女共同参画社会基本法の制定から20年が経ち、女性を取り巻く環境は大きく変化していますが、「あらゆる分野のリーダーに女性が占める割合を30%に」は、まだまだ十分ではありません。

2019年12月に世界経済フォーラムが発表したジェンダー・ギャップ指数（経済・政治・教育・健康に於ける男女格差）において、日本は153か国中121位と過去最低（G7で最下位）であり、先進国とは言えないほど政治経済に女性が少ない状況です。衆議院議員女性比率も10.1%と低い状況ですが、女性議員が増えると政策の順位が変わり、子供やDVに関連する問題が優先され、政策のバランスが良くなるのではないかと期待されます。

当会は女性リーダー育成に毎年講演会を開催し、今年「女性や子供に教育を」と訴え、ノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイの映画を上映しました。坂東市においても女性リーダー30%輩出を目指し、安心して暮らすことで幸せを享受できる社会の推進に協力していきます。

最後に各団体の益々の御活躍と変わらぬご協力をお願い致します。

会長 服部 恵子



特別寄稿 ～男女が共に活躍するための姿勢づくり～

坂東市教育長

倉持 利之

教育を進める中で、「姿勢づくり」を大切にしています。姿勢を「見える姿勢」と「見えにくい姿勢」に分けてみると、見える姿勢は、文字通り「背筋が伸びていていいですね」のように、外観です。一方、見えにくい姿勢は「心の姿勢」ともいべきもので、例えば、人が困難な出来事に遭遇した時に、その「山の高さ」を決めるのはそれぞれの心で、山の高さをどれくらいにとらえ、どう受け止めようとするのかは、「心の姿勢」次第となります。

私たちの身体と心は連動しています。まずは、目に見える身体の姿勢づくりに心がけ、できることから少しずつ実践し、一日一日の積み重ね（習慣づくり）を大切にすることが、心の姿勢づくりにつながるのではないかと思います。例えば、笑顔や思いやりのある接し方に心がけ、逆に人を見下したり、横柄な振る舞い、人権無視の態度をしないなど、自分がしてもらいたいことを行い、されて嫌なことはしないということです。

「身体と心の姿勢づくり」に心がけることで、他人事が自分事のできる、そしてすべての人がひとりの人間として敬意を払われ、自分の意志で自分らしく生きるための権利が尊重される社会、なかでも、性別による固定的な役割分担の解消など男女共同参画の視点に立った意識改革の推進などにより、男女ともにあらゆる分野で活躍できる社会、さらには、すべての女性がその個性や能力を十分に発揮できる社会が実現できることを切に願っています。



パママ懇談会で出された意見 5月21日（火）総会開催

- ①子育て支援施設について
- ②学校生活について
- ③給食について
- ④放課後児童クラブについて



以上の中から、給食について「残食が多いのでは」という参加者の意見から、給食センターで試食及び意見交換を行いました。



市役所1階多目的ホールにおいて、各団体の会員さん出席のもと、総会が開催されました。無事に議案が可決され、新年度がスタートしました。後半は教育長による「多様性の中で生きる」の講話でした。



10月3日（木）いきいき茨城ゆめ国体ふるまい料理提供

坂東市のねぎを使った料理「ねぎアヒージョ」を来場者に提供しました。



《残食について》

- 給食の時間が足りない。
- 残食は献立によってバラつきがある。
- 食べ慣れていない物が残る傾向がある。

《学校での食育について》

- 栄養教諭と担任が連携し、給食時に食に関する指導を行っている。
- 給食センターとしても残食を減らすため、学校と家庭のさらなる連携に向けて、引き続き情報提供をしていきたい。

2月2日（日）男女共同参画事業 映画上映会「わたしはマララ」

令和元年度坂東市男女共同参画事業 映画上映会

ノーベル平和賞を受賞した17歳の少女の勇気と感動の実話

わたしはマララ

“1人の子ども、1人の教師、1冊の本、そして1本のペン、それで世界は変えられる。”

“ふつ”の女の子が、命の危険にさらされながらも女子教育の必要性を訴え、世界各地で活動する様子に密着した感動のドキュメンタリー映画。彼女の生い立ちや家族との絆、さらには10代のごく普通の女の子と変わらない素顔に迫る。（字幕上映）

【日時】 令和2年2月2日（日）
午後1時30分～3時30分（受付：午後1時～）

【会場】 坂東市立岩井図書館 視聴覚室（2階）
（住所：坂東市岩井5082番地）

【定員】 130名（事前申込）どなたでもご参加いただけます。
ご参加された皆様に素敵なプレゼントがあります!!

【申込/問い合わせ先】
坂東市役所 市民協働課
TEL 0297-21-2183（直通）
※FAXの申込書は裏面にあります。

申し込みメールフォーム
QRコード
入場無料

共催 坂東市・ばんどう市女性団体協議会
（構成団体：ガールスカウト茨城県第8団・坂東子ども劇場・坂東市更生保護女性会・坂東市交通安全母の会・坂東市女性フォーラム・坂東市地域女性団体連絡会）

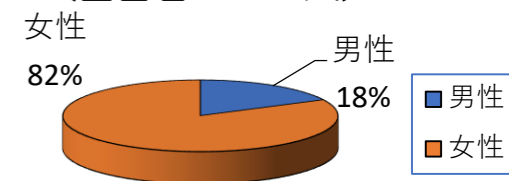
私がこの映画で心に残ったのは、「学校で子どもは将来を展望し、学校で美しい夢を描く」という言葉です。学校は知識を得るだけの場ではなく、子どもが自分の将来を考え、夢や希望を持つ場であり、だから価値があるという事を再認識しました。貴重な映像と素晴らしい映像の数々、そしてマララさんの強さだけではなく、苦悩も描かれていて、心を揺さぶられる映画でした。

木村 敬子

◎アンケート集計結果（回答者102人）

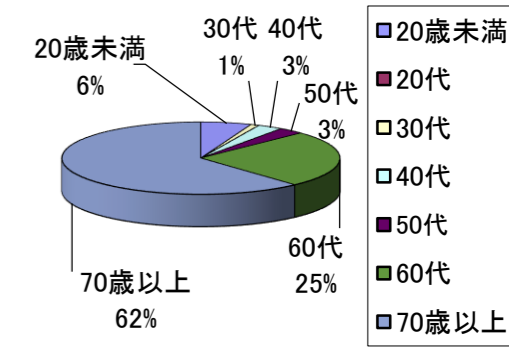
★性別

男性	18人
女性	84人



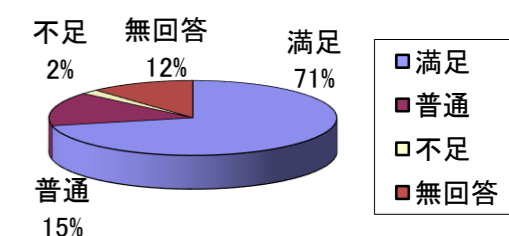
★年齢

20歳未満	6人
20代	0人
30代	1人
40代	3人
50代	3人
60代	26人
70歳以上	63人



★上映会の満足度

満足	73人
普通	15人
不足	2人
無回答	12人



◎映画上映についての感想

- 女子も無学であってはならない、強い意志を持って生きようとする姿に感動した（60代・女性）
- 教育の大切さが分かりました（70代・男性）
- マララが生きていて良かった、これからも子供たちのために頑張ってください！（70代・女性）